

A-3 ITプロジェクトの未来を変える「要求開発」の実践 10:00 ビジネス価値を生み出す新たなマネジメント技法

株式会社 匠BusinessPlace
代表取締役社長 萩本 順三

【セミナーの狙い】 ビジネスの価値を高めるためのソフトウェア開発のあり方、マネジメントの考え方について、要求開発の考え方を更に進めた匠メソッドをご紹介します。その中で、従来の常識が非常識であることを理解していただき、ビジネス価値を高めるためのIT改革の意識を持つようになる。

【セミナーコンテンツ】 要求開発の基礎である、要求開発の4象限、ロールモデルとしてのコタツ形成、要求開発プロセス、要求開発モデルの紹介。
要求開発を更にレベルアップして業務改革・改善プロセスまで網羅している匠メソッドの構成、匠Thinkという考え方とそれを使った業務改善の紹介。匠メソッドで目指そうとしている新たなITエンジニア像、キャリアパス。そして、今後のシステム開発のマネジメントの課題を整理する。

【受講をお奨めする方】 ビジネス企画担当マネージャー、ビジネス業務担当マネージャー、開発部門の方々。

【講師略歴】 オブジェクト指向技術をビジネスで活用するために豆蔵設立に参画。ソフトウェアエンジニアリングを追及しているうちにビジネスも含めてデザインすることの重要性に目覚め、要求開発方法論を策定。ユーザ企業、開発企業で適用し洗練させる。2008年匠Labを設立、2009年には匠BusinessPlaceを設立し、価値を描き・作るためのビジネスエンジニアリングの確立と、IT企業価値向上のための変革を追求している。

B-3 手戻りを最小限に抑える要件定義のコツ 13:45 要件定義をスムーズに進める質問力・要約力

有限会社 パスカル
代表取締役 田淵 秀乙

【セミナーの狙い】 ITプロジェクトを始め、一般的にコンサルティング業務の成功はクライアントの求める要件を確実にとらえることにかかっている。しかし、この要件定義が実に難しく、あいまいなままスタートするプロジェクトが多い。結果として、いわゆる手戻りと呼ばれるやり直し、修正が発生し、コンサルタントやベンダーは経済的にも納期的にも負担を強いられ、品質低下につながるようになってしまう。そしてクライアントの不満は増大し、双方不愉快な思いをするのが世の常である。そこで、本セミナーでは要件定義の成功の確率を高めるいくつかのポイントを実例を交えてわかりやすく解説する。

【セミナーコンテンツ】
1. 要件定義とは何か 2. 要件定義の落とし穴
3. 質問力と要約力 4. 実例紹介

【受講をお奨めする方】 要件定義をスムーズに行いプロジェクトを成功させたい全てのプロジェクトマネージャー・コンサルタント・プロジェクトメンバー

【講師略歴】 通商産業省(現経済産業省)、マッキンゼー・アンド・カンパニージャパン、ラッセルレイノルズ、グロービス、日本コーンフェリー・インターナショナルを経て2000年にパスカル社創設。日本を代表する企業群のコア人材育成トレーニング及び、組織変革、業務変革、イノベーション創造、戦略策定支援のためのプロジェクト支援コンサルティングを実施。東京大学工学部原子力工学科卒 東京大学非常勤講師。

A-5 チームビルディングからはじめよう 10:00 プロジェクトを成功させる自律型チーム作り

永和システムマネジメント
サービスプロバイディング事業部 担当部長 岡島 幸男

【セミナーの狙い】 短納期・低コストのプロジェクトにより疲弊する現場が増えている昨今、プロジェクトマネジメントの力点は「タスク中心」から「人間中心」に移りつつある。リーダーによるコマンド&コントロールではなく、自律したメンバーから生まれるチームワークにより難局を乗り切る必要があるのだ。これからのリーダーやマネージャーは、プロジェクトの計画作りと同じかそれ以上に、「自律的なチーム作り」の重要性を意識する必要がある。本セミナーを通じ、自律型のチーム作りに役立つ「プロジェクトファシリテーション」手法の価値観や原則を理解いただくとともに、「朝会・ふりかえり・かんぱん」といった具体的手法を身につけ、現場で活用いただければ幸いである。

【受講をお奨めする方】 主にソフトウェア開発に携わる現場リーダー及びプロジェクトマネージャー

【講師略歴】 1971年福井県生まれ。同志社大学経済学部卒業後、株式会社永和システムマネジメントに入社。現在は複数のプロジェクトチームをマネジメントし、福井と東京を往復する日々を過ごしている。著書に『ソフトウェア開発を成功させるチームビルディング』(ソフトバンククリエイティブ)。『受託開発の極意—変化はあなたから始まる。現場から学ぶ実践手法』(技術評論社)他。

A-4 ビジネスとITの融合を支えるIT国際標準の動き 10:00 グローバルな土台に独自技術を開発しよう

株式会社 日立インフォメーションアカデミー
シニアエバンジェリスト 緒方 慎八

【セミナーの狙い】 企業活動は益々ボーダレスとなり人間の活動もITもグローバル化しているが、日本のITは開発も運用も日本の中で閉じた展開をする傾向がありグローバルな土台から遊離している様に見受けられる。グローバル標準を今一度見つめ直すことを訴える。

【セミナーコンテンツ】 経営戦略に基づいて行うビジネスプロセスマネジメント(OMG/OCEB)、IT戦略を立てる際に使用するエンタープライズアーキテクチャー(EA)策定のフレームワークであるTOGAF、そして個別のシステムの開発を行う際の要件定義の知識体系BABOKについて解説する。そしてPMBOK®やCMMIやITILがどう位置付けられるのかも解説する。日本の独自技術を構築していくためにはこれらの国際(デファクト)標準をベースにしていく事が大切に思える。

【受講をお奨めする方】 ビジネスとITの融合を追及するITユーザ、及びベンダの技術管理者/エキスパート。

【講師略歴】 1971年日立製作所入社。OSの設計・開発に従事。1990年から英国、米国、中国へ海外赴任し10年以上海外での技術・システム開発・事業開発プロジェクトに従事。現在OCEB、TOGAF8/9 Certified、CMMI Instructor、PMP®、ITIL Manager、CISM等の資格を持ちIT教育事業に従事。

B-4 PM成功のための超上流アプローチ 13:45 PMIにおけるビジネスアナリシスの位置付け

International Institute for Learning-Japan 株式会社
シニアコンサルタント 榊原 英昭

【セミナーの狙い】 ビジネスアナリシス(BA)は、ビジネス戦略の企画・立案、要件定義の段階での作業(タスク)とそのための技術(テクニック)を体系化したものである。プロジェクトマネジメントの超上流と位置付けられているBAについて、そのコンセプトやPMとの関連性について解説し、PMIにおけるBAの位置付けや役割を紹介する。

【セミナーコンテンツ】 主に次の事項について解説する。
・プロジェクトでの超上流行程の定義とBA。
・ビジネスアナリストの位置付けと役割。
・BABOK(BA知識体系)のコンセプト(概念)と知識エリアの定義、BAプロフェッショナルの知識の全体像。
・プロジェクトに対するビジネスアナリストの参画と支援の方法。
・知識エリア(ビジネスアナリストが実施する作業)の定義や技術。

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに関わるすべての方。

【講師略歴】
・1978年横浜国立大学工学部卒
・金融機関での業務経験を経て、2005年より現職
・システムアナリスト、プロジェクトマネジャー
・著書 システムアナリスト(TAC出版)、ネットワーク技術(経緯書房)他

A-6 長期的まちづくりのマネジメントとは 10:00 富山ライトレール開業からのその後を見る

環境デザイナー
宮沢 功

【セミナーの狙い】 合理的な効率を求め、基本的に縦割り組織で推進されるまちづくり事業。「公共交通によるコンパクトシティ」の実現を目指し、そのリーディングプロジェクトとして2006年4月に開業した富山ライトレール以降、富山市ではいくつかの関連プロジェクトが実施されている。2009年12月には市内電車環状線事業が開業した。2014年の北陸新幹線開業後、2018年頃の路面電車の南北乗り入れ計画もあり、「公共交通によるコンパクトシティ」実現には10年以上の歳月を必要とする。その実現には複数のまちづくりに関連する事業が有効に連携し実施されねばならない。独立した組織の部署間の調整、市民意識の向上と企業の参加等、難しい状況の中でのマネジメントの意味、多くの課題の発見と解決の可能性を考える。

【セミナーコンテンツ】 まちづくりに於ける目標・時間・コスト・質・組織・マネジメントとは何か。

【受講をお奨めする方】 「よいまちづくりとは」に興味ある全ての方。

【講師略歴】 1941年東京生まれ、1959年GKインダストリアルデザイン研究所に入所、1982年GK設計へ移籍後、取締役社長、取締役相談役を経て2009年4月定年退職。入社以来ヤマハ発動機のモーターサイクル、京都信用金庫のインテリヤ、大阪万博、つくば博、都市のサイン・SFを手がける。2004年富山ライトレールのトータルデザインを担当、その後、市内環状線で路面電車、街路デザインを含むトータルデザインを担当。

B-5 Strengths-Based TeamBuilding 13:45 強みを活かしてチームを作る方法

している株式会社
代表取締役 長尾 彰

ワークショップ

【セミナーの狙い】
◆チームビルディング・プロジェクトのフレームワークを理解する
◆強みを活かした上でのチーム活動の優位性を体感する

【セミナーコンテンツ】
1. オリエンテーション
2. チームビルディング・プロジェクトのフレームワーク
3. ワークショップ
4. リフレクション、ラップアップ

【受講をお奨めする方】
●5人以上の部下をお持ちのマネージャー
●トップダウンよりもボトム/ベースアップの組織を作りたい経営者
●「強みを知り、活かす方法」「チームをつくり、生産性を高める方法」を具体的に知りたい方

【講師略歴】 ファシリテーター。静岡県生まれ。日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科(心理臨床カウンセリングコース)卒業後、東京学芸大学大学院にて教育を研究。その後教育研修会社、玩具メーカー人事、人事コンサルタントを経て、2007年4月より「している株式会社」に所属。企業、職員室、スポーツチームなど、10年以上にわたって500回を超えるチームビルディングプログラムを実施。Educational Future Center代表

B-6 乾いた雑巾より、濡れた雑巾を絞れ! 13:45 「効果」を出す! 3D(XVL)活用の実例

株式会社 やまびこ
開発本部 技術管理部 製品取説課 主任 田中 剛

【セミナーの狙い】 業務改善プロジェクトにおいて、発生事象のみに着目すると「乾いた雑巾」絞りに帰着する。一方、原因を深掘りして要望の本質を追究すれば、全体を巻き込んだ潮流がうまれ、やがては、「濡れた雑巾」を探せ!という意識改革へと発展する。本セミナーでは、「付け合せの野菜」程度に扱われるパーツカタログの重要性を知らしめ、いかに、情報共有化ツールとして昇華させていったのかを「3D WEBパーツカタログ プロジェクト」を実例に報告する。

【セミナーコンテンツ】
1. 現状認識と応急対策の実施
2. 市場要望の本質と思い込みの相違を検証
3. 改善要望の反映と効果の試算(プロジェクト立ち上げ)
4. 全体最適へ向けての情報共有化とは(win-WINの発想)
5. 20%の蟻からの提言

【受講をお奨めする方】 後工程での3D活用を検討されている方、部門間の壁にお悩みの方、即効性の高い改善施策に興味のある改善担当者及び、経営層

【講師略歴】 株式会社やまびこ 開発本部 技術管理部 製品取説課勤務。注目されない業務にこそムダが多いことに着目し、WEBパーツカタログを活用した情報共有化の推進や、テクニカルイラストのグレード分類による工数・経費の低減などを提唱。2009年12月、ラティス・テクノロジー株式会社 鳥谷代表取締役と共に、自身の取り組みの経緯と、提案をまとめた「3Dデジタルドキュメント革新」(JIPMソリューション)を出版。